

聖夜の飾り 心に光を

手縫いの1.8万セット販売

**支援
通信**

東北のお母さんたちにクリスマス飾り（オーナメント）を作ってもらい、それを買って、被災地の支援に……。中小企業経営者や会社員でつくるグループがそんな事業を始めた。「復興への足がかりにしてほしい」としている。

取り組むのは、東京や千葉の有志でつくる一般社団法人「チームともだち」。3月下旬に発足し、東北の

岩手・宮城に仕事づくり

特産品をインターネットで販売するなどして支援してきた。代表の登内義也さん（44）は「合言葉は『子どもが夢を見られる日本』。それには大人が仕事を持つことが必要だと考えた」。

岩手県久慈市、同県陸前高田市、宮城県石巻市の女性約50人に制作を委託し、完成品をインターネットや百貨店の店頭で販売する。プロジェクト名は「東北グランマのクリスマスオーナメント」だ。

ハートや星形で手のひらサイズの大（1個入り千円）と、クマや雪だるまのに入った縦横5センチサイズの小（5個入り千円）がある。

1セットにつき、2000～4000円前後が女性たちに支払われる仕組みだ。1万8千セットを作る。「チームともだち」の協力者から、農業に頼らず栽培したオーガニックコットンを調達。製品を作る際の残布も使用している。

プロジェクトに参加した地域の一つ、宮城県石巻市北上町十三浜の大指地区には約40世帯が暮らす。ワカメの養殖が盛んだが、採る直前に津波の被害に。船の約8割を失い、地区は大きな打撃を受けた。

高橋睦子さん（71）も自宅や船を流され、現在は仮設住宅で暮らす。これまでワカメの養殖に携わってきた。「針仕事なんて、ほんとにできっかと思っただ」。それでも10人ほどの仲間と集会所でオーナメントを手縫いした。「震災後、一人でいるのは嫌だった。仕事があるのより、いっしょになった」と話す。

オーナメントは、インターネット（<http://lohngarden.jp/>）のほか、19日から大阪の阪急うめだ本店で、11月16日からは大丸の神戸、新長田、芦屋、須磨の各店でそれぞれ販売する。問い合わせはチームともだち（03・5778・4871）へ。

（高橋健次郎）



↑ いずれもインターネットで販売の始まったクリスマスオーナメント
 ↓ オーナメントを制作した笑顔の「グランマ」たち
 宮城県石巻市、「チームともだち」提供